



●新しい色彩講座 前半のご案内

日本色彩学会 教育普及委員会で、2023年7月から「あたらしい色彩」の講座（全6回）がスタートします。前3回を紹介します。

◆第1回：7月29日（土）13:30-15:30
「色彩を活用した地域ブランディングと社会貢献」

登壇者：牧野暁世氏（東海学園大学心理学部）、村上加奈子氏（鹿児島大学イノベーションセンター） オンライン開催。

◆第2回・8月27日（日）13:30-15:00
「メンズコレクション～見方と生かし方 そして2024年最新トレンド～」

登壇者：日置千弓氏（ファッション・ジャーナリスト） オンライン開催。

◆第3回・10月20日（金）17:00 -18:30
（20時まで開館）会場：国立新美術館（六本木）（ハイフレックス配信）

テーマ：サンローラン展との連動企画
「イヴ・サンローランの色彩」

講演会・展覧会見学会コーディネーター：室屋泰三氏（国立新美術館）

登壇者：小野寺奈津氏（国立新美術館）

【受講料】（各回）日本色彩学会員 2,000円・非会員 3,500円

（学会メールニュース No.419 から引用）

●城一夫名誉会員を偲んでー 14

城一夫・長谷川博志著 イタリアの伝統色
パインインターナショナル発行

2014年2月22日発行 定価 2,800円

本書は、長く学会に在籍されていた故長谷川博志さんとの共著である。長谷川さんは、日本ペイントを退職後、毎年、半年以上イタリアに住まいを移し、イタリア語の勉強と、イタリアの景観色彩の調査と撮影に携わり、老後の楽しみとされてきた。

この本の前半は、長谷川さんによる、22の「街の色」を巡る写真と紀行文による構成になっている。見開きに収められたその街の写真から、街の色がストレートに感じられる。

中にヴェネチアのブラーノ島が取り上げられているが、この街の色彩基準は、「3年に一度塗り替え、隣と同色にしないこと」と長谷川さんから聞いたことを思い出している。

後半は、城さんの「伝統色と色票」であり、合計105色のイタリアの伝統色が選ばれて、解説文が添えられ、美しい写真と対比しながら学ぶことができる構成になっている。

長谷川さんとは、イタリア語の環境色のための500色以上の色名帳の作成を相談していたが、思いがけない氏の早世に夢は消えていった。 (永田泰弘)

●大辞泉ひろいよみ 26 ーう

梅襲：襲の色目の名。表は濃い紅、裏は薄紅。十一月から二月にかけて用いる。

梅染（め）：うめぞめ。紅梅の樹皮や根を煎じた汁で染めること。また、染めたもの。赤みのある茶色のものを赤梅、黒ずんだ茶色のものを黒梅という。

烏夜：烏は黒いところからやみ夜。

裏彩色：うらざいしき。中国・日本画で、絵画の裏側からも彩色すること。色をぼかし柔らかい感じを出す効果がある。また、その彩色。裏塗り、裏具。

裏白青磁：表面だけに青磁釉を施した青磁。中国清代に作られた。うらじろで。

裏白戸：土蔵入り口の開き戸の内側に設ける防火用の引き戸。表がねずみ色、裏が白漆喰塗りのもの。うらじろのと。

裏白連歌：懐紙の表にだけ句を書き、裏には書かない方式の連歌。

裏優紅梅：うらまさりこうばい。襲の色目の名。表は紅梅、裏は紅。初春に使用。

裏柳：襲の色目の名。表は白、裏は萌葱。

裏山吹：襲の色目の名。表は黄、裏は紅。一説には裏は萌葱、青色などとする。(永田泰弘)